

注意報 第2号

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿
JPP - NET会員

福岡県病虫害防除所長

平成22年度病虫害発生予察注意報第2号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第2号を発表したので送付します。

ヒメトビウンカ越冬虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、調査を行ったほとんどの地点で高く、一部地域では特に高い傾向にありました。今後の本種の発生量によっては、縞葉枯病が多発する可能性が高いので、防除の徹底をご指導願います。

水稻

1 病虫害名 イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

2 発生地域：県下全域（特に京築地域）

3 発生時期：並

4 発生量：やや多

5 注意報の根拠（保毒虫率検定結果）

平成22年3～4月に県内16地点の水稻作付け後ほ場から採集したヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率をエライザ法で検定した。その結果、保毒虫率は平均9.8%で（表）、保毒虫率が高くなり始めた平成15年から7年間の平均6.1%よりも高く、前年の平均8.4%よりもやや高かった。特に、京築地域の保毒虫率が高かった（表 地点番号14～16）。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 越冬世代成虫は小麦や越冬地付近のエノコログサ、イタリアンライグラス等のイネ科植物に移動し増殖するので、雑草防除を行い発生密度の低下を図る。
- (2) 水稻苗への本種の飛び込みを防止するため、イネ科雑草が繁茂した場所や麦類作付けほ場付近での育苗を避ける。
- (3) 前年度、本病が多発したほ場では、田植え時期を可能な限り遅らせる（麦収穫後の6月10日以降）。
- (4) 第1世代成虫は5月中旬ごろから羽化し始め、麦の収穫とともに麦ほ場から水稻へ移動するので、5月下旬～6月上旬移植のほ場では移植直後から成虫の発生に注意し、発生が多い場合は防除を実施する。

今後、ヒメトビウンカやイネ縞葉枯病の発生状況を予察情報等で提供するので参考にす
る。

表 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率（平成22年4月）

地点番号	地点名	検定虫数	保毒虫数	保毒虫率(%)
1	宗像市朝町	94	9	9.57
2	筑紫野市柚須原	169	8	4.73
3	久留米市太郎原	42	2	4.76
4	うきは市浮羽町山北	94	13	13.83
5	朝倉市菱野	94	5	5.32
6	嘉麻市中益	94	4	4.26
7	添田町落合	94	1	1.06
8	筑後市馬間田	94	3	3.19
9	大川市北古賀	94	5	5.32
10	みやま市瀬高町堤	94	5	5.32
11	八女市黒木町木屋	94	4	4.26
12	岡垣町黒山	94	5	5.32
13	遠賀町木守	94	8	8.51
<hr/>				
14	行橋市辻垣	94	29	30.85
15	豊前市荒堀	94	23	24.47
16	みやこ町勝山	94	25	26.60
<hr/>				
平均	県下全域（地点番号1～16）			9.84
	京築地域（同14～16）			27.30

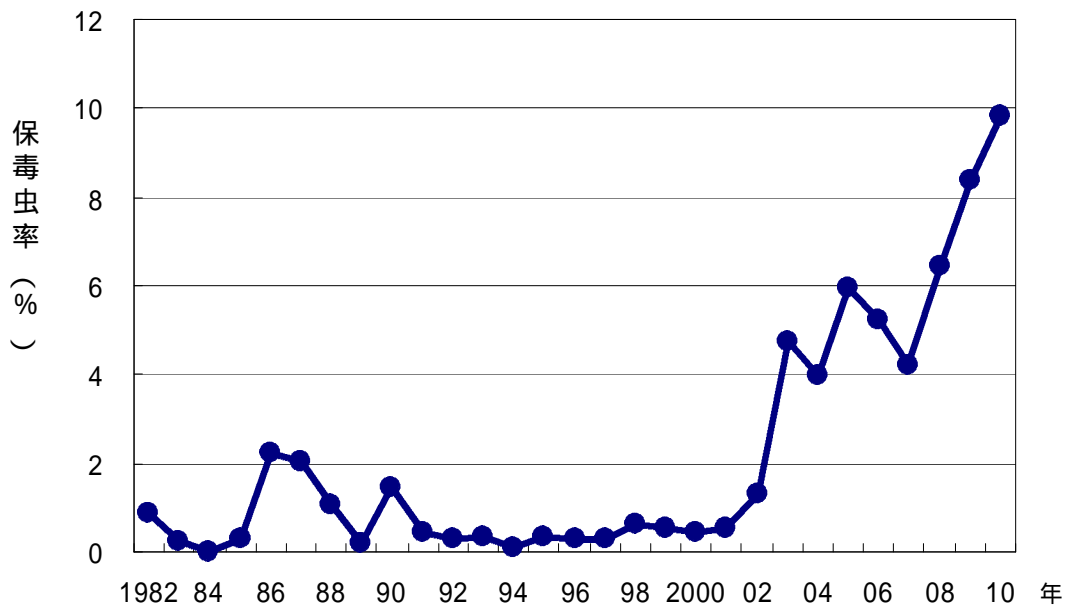


図 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率の推移